いのちまもる
キャラバン行動ニュース

第 12 号
2013 年 11 月 1 日
日本医労連
TEL：03-3875-5871
FAX：03-3875-6270

秋キャラバン、後半戦へ！

各地の取り組みもいっきに加速☆

各県から届いたニュースをご紹介します！

京都医労連
秋キャラバンはじまる

京都医労連は 10 月 18 日から秋のキャラバン行動で病院要請を開始しました。

今年の特徴は、「会話が長い、はずむ」といいます。 今年も、福保労・自治労連と共催で、民医連の協力も受け、府内のすべての病院・老健・医療関係団体を訪問。10 月 7 日の事前学習会を経て、10 月 16 日に第一陣の京都市内南部コースが出発。当日は、約 20 人の組合員が参加しました。訪問先では、「看護師が足りない。ウチのような慢性期の病院には看護師はなかなか来ない」（左京コース）、「一般病棟は世代交代の時期で厳しい。採用は、ホームページ・看護協会・ハローワークで募集している。業者は高すぎて使わない」（上京コース）などの声が。一方で、「うちは看護師足りている」（南コース）という病院も。しかし、2 交替制を採用していたり、つぎはぎの勤務体制をとっている病院もありました。「消費税は損税が増えるから困る」（下京コース）などの声も聞かれました。引き続き、病院訪問要請行動を実施します。

東京医労連
日本共産党東京都議団と懇談

東京医労連は、10 月 15 日、都議会にて、日本共産党東京都議団と懇談を行いました。看護闘争委員を中心に 9 名が参加し、都議団からは、厚生委員の大山とも子、大島よしえ両都議らが応対しました。

東京医労連からは、看護師の長時間夜勤や過重

労働の実態とその背景にある人手不足の問題などを伝え、都議会での請願採択への協力を求めました。また、多摩市議会で行われたような、医療・看護・介護現場を実際に都議会議員に視察するような働きかけも要請しました。

都議団は、私たちの要請に賛同をいただいたほか、請願採択へむけても引き続き努力すると表明されました。懇談にあたっては、東京医労連看護闘争委員会で作成した病棟実態調査報告と「看護師が足りません」リーフを渡すなど、実態を訴えるのに大いに役立ちました。

岩手医労連
県内５か所で一斉署名行動！
延べ 58 人が行動し 818 筆を集約！

岩手医労連は 10 月 20 日、全国一斉地域キャラバン行動として県内５カ所で「大幅増員・夜勤改善署名」の一斉署名宣伝行動を実施しました。今回の取り組みは、同時進行の企画は岩手では初めて。

この日は県内全域が雨模様でしたが、５地域で計 58 人（子供応援含む）の組合員が奮闘し、818 筆を集約しました。

盛岡地区協は「ﾋﾞｯｸﾞﾊｳｽ川久保店」前で、３時間にわたって奮闘し、のべ 11 人が署名宣伝活動を継続し 184 筆を集約。「店内放送で署名の趣旨を宣伝していただき、従業員の方も昼休みに『この署名は大事だから』と協力をしてもらって感激しました。」との嬉しい声が。

釜石地区では、昼１時間でなんと 250 筆もの署名を集約。初めての企画となった胆江地区では、店頭で 30 分でしたが、宣伝を行いました。参加者は交代でマイクを握り、子どもたちの元気な「署名お願いします」の訴えに、大人が励まされました。花北地区協は、昼１時間の奮闘で、署名数 302 筆集約。市民の反応はとても良くて、署名版が足りなくなるくらい盛況でした。58 筆集めた両磐地域では、ハンドマイクで若い看護師が交代で一生懸命訴え、おじさんおじいちゃんが多く署名してくれました。

岩手医労連は、10～11 月に開催する執行委員会や看護対策委員会の開催前にも、連続して署名宣伝行動を実施して行きます。

神奈川県医労連　自治体キャラバン！
県保健医療部と懇談。准看護師養成の廃止を訴える

神奈川県医労連は 10 月 16～18 日に、夜勤規制大幅増員と介護の２本について、国に意見書を上げてもらうための県内全自治体訪問を実施しました。16 日初日は、10 年に１度というくらいの激しく強い台風 26 号の関東直撃が報道される中、15 日昼の時点で延期を決め、北相・湘南方面は 28 日に回りました。今回は、昨年採択・意見書を上げていただいた自治体議会はお礼を述べる対応としました。いつものこ

とながら、文書等不十分な点は、それぞれの自治体からの指摘・助言で修正を加えました。

29 日には、県保健医療部との懇談が実現し、佐藤書記長・柏木書記次長・早川・植木執行委員が参加。課題は「県が行った看護職員の施設調査の結果」「9 月にキャラバンの団体要請で県への要請」の 2 点です。看護職員養成に関して、参加者は「もっと現場が改善できる施策」を要望。「全国初の試みの実習支援はよいことだが、現場は疲弊している」と現場の実態を訴えました。准看護師問題では、2 年課程通信制に関して参加者は、「奨学金や 2 年課程通信の実習施設紹介等について対象者に分かるように広報してほしい」と要望を伝えました。准看護師養成校がなくなるのかとの質問に対し、ほぼそうなると思うがとの県側のコメントに参加者は、「自衛隊の中での准看護師養成含め、県内すべての准看護師養成を廃止してほしい」と重ねて要望しました。

愛媛県医労連　看護学習会開催！

愛媛県医労連は 10 月 19 日、看護学習会を開催。26 名が参加しました。県医労連執行委員会の後に、日本医労連・三浦宜子書記次長を招いて、①特定看護師問題と②正循環夜勤についての学習会を開催しました。「政府が国民の生命と安全を守らなければならない責任を放棄し、安く上げようとしていることが実感しました。」、「私たちの看護（療養上の世話）が軽視されている。受けられている医療、看護がお金で格差がついてしまう、人間の生命に値段がつけられてしまう世の中にならないよう、反対しなければならないと切実に思いました。」、「有害業務である事は実感しています。乳がんになった人、脳出血で倒れた NS も数名います。結局、仕事も辞めてしまいました。」等の感想が寄せられました。

他団体との共同で、社会保障改悪ストップ！！

社保協国会行動安倍政権に怒りの声！

現在、第１８５回臨時国会が、１０月１５日～１２月１６日の５３日間の予定で開会しています。この国会では、社会保障総改悪のプログラム法案をはじめ、重要法案が目白押しになっており、国会への集中した行動が重要となっています。行動の１つである国会前集会が、10 月 30 日に行なわれ、全国から 250 人が参加。国民を無視して悪法を進めていく、やりたい放題の安倍政権に対して怒りの声をあげました。

リレートークに参加した民商の男性は、「アベノミクスで景気があがるどころか、仕入れの経費は高騰しても、価格に上乗せもできない。価格競争の波に中小企業は苦しめられている」。沖縄からの参加者は、「オスプレイの配置には、ALL 沖縄が NO の声をあげた。しかし、沖縄にオスプレイは配置されている。辺野古の海に基地を建てると一点張り。沖縄県民は怒っている」と発言しました。集会では、「憲法違反の『推進法』を廃止し社会保障の拡充を求める請願」署名を、千葉県社会保障協議会の藤田さんが代表して、佐々木憲昭衆議院議員に手渡したほか、午前中にも要請行動が組まれ、合計５万６千筆の署名が国会に届けられました。